

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

The Labour Year Book of Japan special ed.

第七編 国際労働運動

第四章 世界労働組合連盟の創立

第六節 国際労働組合連盟の解散

世界労連が結成されたのちも、国際労連は名目上なお存在していた。世界労連に加盟したいくつかの労働組合中央組織は、続けて国際労連に加盟していた。しかしそれは名目上のことにすぎなかった。スイスの労働組合は国際労連と世界労連の「連続性」を明らかにするよう、国際労連の特別大会を招集することを提案したが、こうした提案はなんら現実性をもっていなかった。シトリンやスケヴネルスはすでに世界労連の役員に就任して活動をはじめていたし、アメリカのAFLがこうした「連続性」をみとめるはずもなかった。

結局一九四五年一二月に国際労連は総評議会を開き、圧倒的多数で労連の解散を決定してしまった。AFLはこの会議に出席しなかった。

こうして、戦時中、連合諸国の労働者階級のあいだでおしすすめられた反ファシズムの統一行動は、労働運動史に画期的な世界労働組合連盟という国際的統一組織をうみだし、この統一行動を組織する意志と能力にかけたばかりか、その発展を阻害していた国際労働組合連盟を過去の中に葬り去ったのである。

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

発行 1965年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)